第７章　中高生における共生志向の違いと関連要因の検討

江角 周子

１．はじめに

本稿では中高生において，マイノリティとの共生志向，特に本稿では障害者および外国人との共生志向の違いが，どのような要因と関連しているのかを明らかにすることを目的とする。

具体的には，障害者および外国人との共生に関する賛否を問う質問である「外国人・障害者のための社会づくりへの賛否」（Q16）をマイノリティとの共生志向のあり方を反映する問とし，この問を中心に分析を行う。第２節では中高生における障害者および外国人との共生志向のパターンについて検討を行い，第３節では共生志向のパターンの背景にある要因を基本属性，家庭・学校内外での経験の点から探索する。最後に第４節では，共生志向のパターンの違いが身近なマイノリティへの援助志向とどのように関連しているかを検討する。

２．中高生における共生志向の検討

本稿では「外国人・障害者のための社会づくりへの賛否」（Q16）をマイノリティとの共生志向のあり方を反映する問とし，検討していくが，各人の中でカテゴリの違いによって共生に賛成か反対かが異なる場合も想定されるため，中高生の共生志向と関連する要因の検討に入る前に，共生志向のパターンによる対象者の分類を行う。

なお，「外国人・障害者のための社会づくりへの賛否」（Q16）では，外国人と障害者のカテゴリ間において共通の質問項目が設定されている。具体的には，表１に示す通り「１．外国人が暮らしやすい社会にすること」と「５．障害のある人が暮らしやすい社会にすること」，「２．学校で，日本人の生徒と外国人の生徒が一緒の教室で学ぶこと」と「６．学校で，障害のある生徒と障害のない生徒が一緒の教室で学ぶこと」，「３．国籍に関係なく，仕事を得る機会が同じようにあること」と「７．障害に関係なく，仕事を得る機会が同じようにあること」が共通する質問項目である。一方「４．永住外国人（国籍はなくても，日本に住み続けることが認められている人）が政治に参加できるようにすること」と「８．障害のある人の公共交通機関（鉄道やバス）の利用料金を安くすること」は，各カテゴリに特化した質問項目となっている。

分析の手順としては，まず，分析対象とした８項目それぞれ新たな変数を作成し，各事柄に対する賛否で数値化を行った。なお，数値化にあたっては，「賛成」を４，「どちらかといえば賛成」を３，「どちらかといえば反対」を「２」，「反対」を１とした。つづいて，新たに作成した８つの変数についてクラスタ分析（Ward 法）を行ったところ，４群

に分かれた。最後に，抽出された４群を独立変数，共生に関する事柄の賛否を問う８つの変数を従属変数とする分散分析を行った。その結果，４群の特徴が明らかになったため（図１），表２に示すように群の命名を行った。

なお，「外国人との共生には積極的な群（CL3）」および「障害者との共生には積極的な群（CL4）」に焦点をあてると，各カテゴリ内でも賛否の程度が異なることが窺える。具体的には，障害者や外国人が暮らしやすい社会にすることに対する賛成の程度に比べ，「４．永住外国人（国籍はなくても，日本に住み続けることが認められている人）が政治に参加

表１　「外国人・障害者のための社会づくりへの賛否」（Q16）の各質問項目

外国人との共生	障害者との共生
１．外国人が暮らしやすい社会にすること	５．障害のある人が暮らしやすい社会にすること
２．学校で，日本人の生徒と外国人の生徒が一緒の教室で学ぶこと	６．学校で，障害のある生徒と障害のない生徒が一緒の教室で学ぶこと
３．国籍に関係なく，仕事を得る機会が同じようにあること	７．障害に関係なく，仕事を得る機会が同じようにあること
４．永住外国人（国籍はなくても，日本に住み続けることが認められている人）が政治に参加できるようにすること	８．障害のある人の公共交通機関（鉄道やバス）の利用料金を安くすること

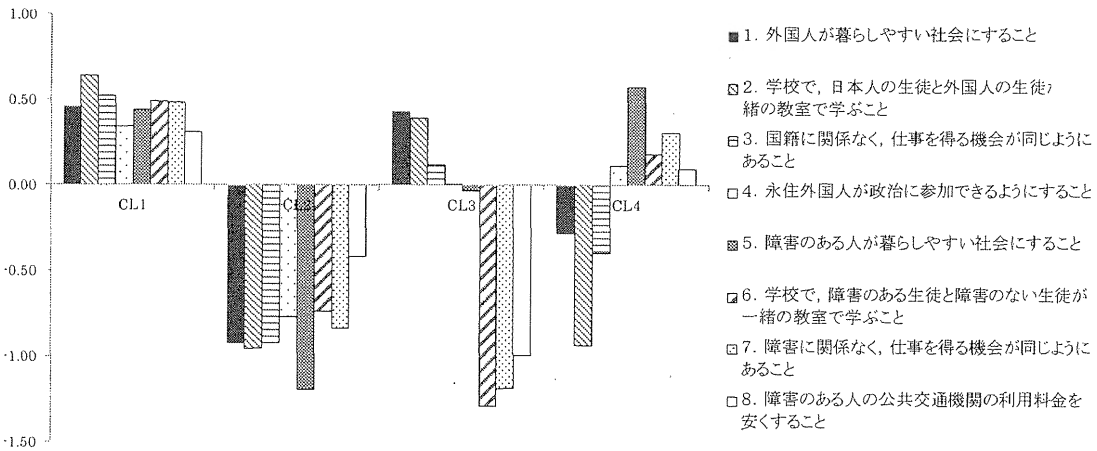

図１　４クラスタを独立変数，各質問項目の（z 得点）を従属変数とした分散分析結果

表２　共生志向のパターンによる分類

分類		度数
CL1	障害者・外国人両者との共生に積極的な群	572
CL2	障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群	272
CL3	外国人との共生には積極的な群	82
CL4	障害者との共生には積極的な群	150

できるようにすること」や「8．障害のある人の公共交通機関（鉄道やバス）の利用料金を安くすること」といった共生社会実現に向けた具体的な方策に対する賛成の程度が低くなっている。このことから，「外国人との共生には積極的な群（CL3）」および「障害者との共生には積極的な群（CL4）」においては具体的な方策すべてについて賛成しているわけではない点を念頭に置き，結果を検討していく必要がある。

次節においては，本節で明らかになった4つの障害者および外国人との共生志向のパターンの背景要因について検討していく。

3．基本属性および家庭・学校の内外での経験と共生志向の関連の検討

本節では，前節で示された障害者および外国人との共生志向のパターンの4群の背景要因を探索するため，多項ロジスティック回帰分析を行う。説明変数としては，基本属性，家庭内外での経験，学校内外での経験に関する項目を採用した（表3）。

表3　多項ロジスティック回帰分析で使用する説明変数一覧

【基本属性】

①学校段階：「学年」（F1_A）について，高校生を1，中学生を0とした

②性別：「性別」（F1_B）について，男性を1，女性を0とした

③祖父母との同居：「同居している人」（F2）について，祖父母と同居しているを1，同居していないを0とした

④家族や親戚における障害者・外国人の存在の有無：「家族・親戚における外国人／障害者の存在」（F3）について，自分自身を含む家族や親戚に「障害者がいる」，「外国人がいる」のそれぞれについて，該当を1，非該当を0とした

【家庭内外での経験】

⑤家庭で社会の問題について話す程度：「家族内の話題」（Q6）の主成分分析により算出された第1主成分の成分得点[1)]

⑥家庭内での役割遂行：「家事手伝いの習慣」（Q7）の主成分分析により算出された第1主成分の成分得点[2)]

⑦家庭内でのマイノリティの世話経験：「家族における配慮を必要とする人の世話」（Q8）について，家の中における，年少者，お年寄り，障害のある家族の世話をした経験それぞれについて，「いつもする」を4，「ときどきする」を3，「あまりしない」を2，「ほとんどしない」を1，「そうした人はいない」を0とした

⑧家庭外でのマイノリティの世話経験：「家の外での配慮を必要とする人の世話」（Q12）について，家の外における，年少者，お年寄り，障害のある人，外国の人の世話をした経験それぞれについて，「とてもよくしてきた」を4，「よくしてきた」を3，「あまりしてこなかった」を2，「してこなかった」を1とした

【学校内外での経験】

⑨授業理解度：「授業理解度」（Q2）について「わかる」を４，「どちらかといえばわかる」を３，「どちらかといえばわからない」を２，「わからない」を１とした

⑩学校内でのマイノリティとの交流経験：「学校内における配慮を必要とする人との関わり」（Q9）について，障害のある子，外国人の子それぞれについて「クラスで一緒に勉強する」「一緒にクラブや部活をする」を『交流』，「親しく話をすること」「学校生活で不利にならないように手助けする」「悩みを聞いたり，相談に乗ってあげたりする」をより関わりの程度の深い『親交』とし，２つの変数を作成し，使用した

A「交流」なしを１，それ以外を０とした

B「親交」ありを１，それ以外を０とした

⑪学校外でのマイノリティとの関わり数：「学校外における配慮を必要とする人との関わり」（Q10）について，障害のある人，外国人，お年寄りそれぞれについて，「近所で見かける」「隣近所でお付き合いをする」「ボランティアとして関わる」の３項目を足し合わせた変数を作成し，使用した

⑪「共生社会」という言葉の認知：「『共生社会』という言葉の認知」（Q19）について，つぎの２つの変数を作成し，使用した

A「言葉を聞いたこともあり，その意味も知っている」を１，それ以外を０とした

B「聞いたことがない」を１，それ以外を０とした

これらの変数を説明変数とし，「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」を参照カテゴリとした多項ロジスティック回帰分析を行った。その結果，表４に示した結果が得られた。

まず，「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」については，中学生であること，男性であること，家庭で社会の問題について話す程度が小さいこと，家庭内で自分よりも小さい子の世話をした経験があること，授業理解度の低さ，学校の外での外国人との関わり数の少なさと関連があることが示された。つぎに，「外国人との共生には積極的な群（CL3）」については，中学生であること，男性であること，家庭外で障害のある人の世話をした経験がないことと関連があることが示された。つづいて，「障害者との共生には積極的な群（CL4）」については，自分を含めた家族に障害者がいること，家庭内でお年寄りの世話をしていないこと，学校の中での外国人の子と親交はないが交流はあること，学校外で外国人と関わった経験が少ないことと関連があることが示された。

これらの結果のうち，特筆すべき点としては次の２点が挙げられる。第１に，「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」と「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」との比較において，基本属性である学校段階や性別との関連も見られるが，家庭で社会の問題について話す程度や授業理解度といった家庭や学校での教育経験との関

連も見られる点である。第２に，「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」と「障害者との共生には積極的な群（CL4）」との比較において，学校内で外国人の子と親しく関わった経験や学校外で外国人と関わった経験が関連していることから，外国人との共生に対して積極的な姿勢を示さないことには外国人と関わる経験の少なさが背景にあることが推察される点である。

本節では，障害者および外国人との共生志向のパターンの違いの背景要因の探索として，基本属性と家庭・学校内外での経験との関連を検討した。続いて次節では，共生志向のパターンと身近なマイノリティへの援助志向に焦点をあて，分析を行う。

表４　共生志向のパターンの背景要因（多項ロジスティック回帰分析）

	障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2; *n*=249）				外国人との共生には積極的な群(CL3; *n*=77)				障害者との共生には積極的な群(CL4; *n*=136)			
	オッズ比	*p* 値	95%CI 下限	95%CI 上限	オッズ比	*p* 値	95%CI 下限	95%CI 上限	オッズ比	*p* 値	95%CI 下限	95%CI 上限
切片		.02				.81				.57		
学校段階（高校生である）	.61	.01	.42	.88	.45	.00	.26	.78	.69	.11	.44	1.09
性別（男性である）	2.44	.00	1.74	3.42	2.47	.00	1.46	4.18	.99	.98	.66	1.49
祖父母との同居	.99	.98	.65	1.53	.82	.58	.41	1.64	.97	.91	.57	1.65
自分を含めた家族や親戚に…												
障害者がいる	.77	.39	.43	1.39	1.79	.15	.81	3.97	1.66	.10	.91	3.02
外国人がいる	1.11	.75	.58	2.11	.79	.65	.29	2.16	.78	.56	.33	1.83
家庭で社会の問題について話す程度	.85	.10	.70	1.03	.98	.88	.73	1.30	1.09	.46	.87	1.36
家庭内での役割遂行	1.00	1.00	.84	1.19	1.19	.20	.91	1.57	.99	.96	.80	1.23
家庭内で…												
自分よりも小さい子の世話をする	1.12	.08	.99	1.26	.98	.85	.81	1.19	.99	.89	.85	1.15
お年寄りの世話をする	1.02	.86	.84	1.23	1.07	.62	.81	1.42	.82	.10	.65	1.04
障害のある家族の世話をする	1.10	.50	.83	1.45	.65	.14	.36	1.16	1.14	.39	.85	1.54
家庭外で…												
自分よりも小さい子の世話	.86	.15	.70	1.06	.93	.63	.68	1.26	.85	.20	.66	1.09
お年寄りの世話	.82	.12	.64	1.05	.93	.71	.65	1.34	1.02	.90	.76	1.37
障害のある人の世話	1.08	.63	.78	1.49	.63	.08	.37	1.05	1.05	.79	.74	1.49
外国の人の世話	1.05	.74	.77	1.44	1.17	.48	.76	1.81	.89	.53	.62	1.27
授業理解度	.57	.00	.44	.73	.83	.36	.56	1.24	.80	.18	.58	1.11
学校中で…												
障害のある子と交流なし	.93	.87	.41	2.13	2.49	.24	.54	11.59	2.18	.24	.60	7.94
障害のある子と親交あり	.68	.45	.26	1.82	1.48	.66	.26	8.35	1.37	.67	.32	5.82
外国人の子と交流なし	.56	.39	.15	2.09	.40	.31	.07	2.32	.27	.05	.07	.99
外国人の子と親交あり	.35	.14	.09	1.42	.30	.21	.05	1.98	.28	.08	.07	1.14
学校外での…												
障害のある人との関わり数	.77	.17	.53	1.11	1.00	.99	.57	1.73	.88	.58	.57	1.37
外国人との関わり数	.66	.03	.46	.96	1.48	.21	.80	2.73	.61	.03	.39	.95
お年寄りとの関わり数	1.06	.82	.63	1.79	.59	.20	.26	1.32	1.77	.12	.86	3.64
「共生社会」という言葉を…												
聞いたことがない	.74	.16	.49	1.12	1.14	.66	.63	2.07	.80	.36	.50	1.28
意味まで知っている	1.04	.86	.69	1.56	1.24	.51	.65	2.36	.64	.12	.36	1.12

註：参照カテゴリは障害者・外国人両者との共生に積極的な群(CL1;*n*=526)

4．共生志向と身近なマイノリティへの援助志向との関連

（1）共生志向と身近な障害者・外国人への援助志向との関連

ここでは，共生志向のパターンと身近な障害者および外国人への援助志向との関連について分析する。具体的には，共生志向に関する4群を独立変数，街で困っているマイノリティに出会った時にどのように感じるかを尋ねた「困っている他者への手助け志向」（Q11）のうち，障害のある人，外国人について尋ねた項目（「1．積極的に手助けしたい」「2．対応できる人に助けを求めたい」「3．どうしたらよいかわからない」「4．お節介になる気がする」「5．自分にとって負担になる気がする」「6．自分にとって関係ない気がする」）を従属変数とした$\chi 2$乗検定を行った。その結果を表5，表6に示す。

表5　街で困っている障害者に出会った時に感じることとの関連

		1.積極的に手助けしたい		2.対応できる人に任せたい		3.どうしたらいいかわからない		4.お節介になる気がする		5.自分にとって負担になる気がする		6.自分にとって関係ない気がする		合計
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
CL1	度数	213	359	104	468	202	370	56	516	13	559	18	554	572
	%	37.2%	62.8%	18.2%	81.8%	35.3%	64.7%	9.8%	90.2%	2.3%	97.7%	3.1%	96.9%	100.0%
	残差	6.8	-6.8	.5	-.5	-2.3	2.3	.5	-.5	-3.5	3.5	-5.6	5.6	
CL2	度数	37	235	35	237	127	145	21	251	22	250	39	233	272
	%	13.6%	86.4%	12.9%	87.1%	46.7%	53.3%	7.7%	92.3%	8.1%	91.9%	14.3%	85.7%	100.0%
	残差	-6.3	6.3	-2.4	2.4	3.2	-3.2	-1.1	1.1	3.6	-3.6	5.1	-5.1	
CL3	度数	16	66	15	67	30	52	5	77	8	74	15	67	82
	%	19.5%	80.5%	18.3%	81.7%	36.6%	63.4%	6.1%	93.9%	9.8%	90.2%	18.3%	81.7%	100.0%
	残差	-1.9	1.9	.2	-.2	-.4	.4	-1.1	1.1	2.6	-2.6	4.0	-4.0	
CL4	度数	40	110	36	114	55	95	19	131	3	147	7	143	150
	%	26.7%	73.3%	24.0%	76.0%	36.7%	63.3%	12.7%	87.3%	2.0%	98.0%	4.7%	95.3%	100.0%
	残差	-.5	.5	2.2	-2.2	-.5	.5	1.5	-1.5	-1.5	1.5	-1.4	1.4	
合計	度数	306	770	190	886	414	662	101	975	46	1030	79	997	1076
	%	28.4%	71.6%	17.7%	82.3%	38.5%	61.5%	9.4%	90.6%	4.3%	95.7%	7.3%	92.7%	100.0%

$\chi^2(3)=54.62, p<.001$　$\chi^2(3)=8.57, p=.04$　$\chi^2(3)=10.50, p=.02$　$\chi^2(3)=3.94, p=.27$　$\chi^2(3)=23.19, p<.001$　$\chi^2(3)=50.40, p<.001$

表6　街で困っている外国人に出会った時に感じることとの関連

		1.積極的に手助けしたい		2.対応できる人に任せたい		3.どうしたらいいかわからない		4.お節介になる気がする		5.自分にとって負担になる気がする		6.自分にとって関係ない気がする		合計
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
CL1	度数	233	339	162	410	152	420	22	550	10	562	16	556	572
	%	40.7%	59.3%	28.3%	71.7%	26.6%	73.4%	3.8%	96.2%	1.7%	98.3%	2.8%	97.2%	100.0%
	残差	5.7	-5.7	1.7	-1.7	-3.7	3.7	-2.1	2.1	-1.3	1.3	-4.6	4.6	
CL2	度数	61	211	47	225	114	158	20	252	8	264	31	241	272
	%	22.4%	77.6%	17.3%	82.7%	41.9%	58.1%	7.4%	92.6%	2.9%	97.1%	11.4%	88.6%	100.0%
	残差	-4.3	4.3	-3.9	3.9	4.3	-4.3	1.8	-1.8	.8	-.8	4.5	-4.5	
CL3	度数	28	54	25	57	18	64	3	79	4	78	7	75	82
	%	34.1%	65.9%	30.5%	69.5%	22.0%	78.0%	3.7%	96.3%	4.9%	95.1%	8.5%	91.5%	100.0%
	残差	.2	-.2	.9	-.9	-1.9	1.9	-.7	.7	1.6	-1.6	1.1	-1.1	
CL4	度数	34	116	48	102	55	95	11	139	3	147	9	141	150
	%	22.7%	77.3%	32.0%	68.0%	36.7%	63.3%	7.3%	92.7%	2.0%	98.0%	6.0%	94.0%	100.0%
	残差	-2.9	2.9	1.7	-1.7	1.5	-1.5	1.3	-1.3	-.3	.3	.1	-.1	
合計	度数	356	720	282	794	339	737	56	1020	25	1051	63	1013	1076
	%	33.1%	66.9%	26.2%	73.8%	31.5%	68.5%	5.2%	94.8%	2.3%	97.7%	5.9%	94.1%	100.0%

$\chi^2(3)=36.47, p<.001$　$\chi^2(3)=15.91, p=.001$　$\chi^2(3)=25.42, p<.001$　$\chi^2(3)=6.46, p=.09$　$\chi^2(3)=3.72, p=.29$　$\chi^2(3)=25.93, p<.001$

結果について群別に見ていくと，第１に「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」は，街で困っている障害者および外国人に出会った時，積極的に手助けしたいとの回答率が高く，また，「３．どうしたらよいかわからない」，「６．自分にとって関係ない気がする」の回答率が低かった。さらに，障害者に関しては「５．自分にとって負担になる気がする」の回答率も低かった。第２に「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」は，街で困っている障害者および外国人に出会った時，「１．積極的に手助けしたい」，「２．対応できる人に任せたい」との回答率が低く，「３．どうしたらよいかわからない」，「６．自分にとって関係ない気がする」の回答率が高かった。さらに，障害者に関しては「５．自分にとって負担になる気がする」の回答率も高かった。第３に「外国人との共生には積極的な群（CL3）」は，街で困っている障害者に出会った時，「５．自分にとって負担になる気がする」，「６．自分にとって関係ない気がする」の回答率が高かった。第４に「障害者との共生には積極的な群（CL4）」は，街で困っている障害者に出会った時，「２．対応できる人に任せたい」の回答率が高かった。

これらの結果から，特筆すべき点としては次の２点が挙げられる。第１に「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」においては，街で困っている障害者あるいは外国人に会った際に，積極的に手助けしたいとの回答率が高くなっており，「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」においては，街で困っている障害者あるいは外国人に会った際に，積極的に手助けしたいとの回答率が低くなっていた点である。これらの結果から，身近な障害者および外国人への援助の積極性と両者との共生に対する積極的な態度に正の関連があることが示唆される。第２に，障害者との共生に積極的でないことと外国人との共生に積極的でないことの違いについてである。この点を検討するため，身近な障害者への援助志向に関する問における「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」と「外国人との共生には積極的な群（CL3）」の共通点，また，身近な外国人への援助志向に関する問における「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」と「障害者との共生には積極的な群（CL4）」の共通点に着目したところ，街で困っている障害者に会った時に「５．自分にとって負担になる気がする」，「６．自分と無関係であると感じる」との回答率が高くなっており，一方，外国人に関する問においてはこうした回答率の偏りは見られなかった。これらの結果から，障害者との共生に対する姿勢を分ける背景要因としては，自己負担感と無関心があることが窺える。

（２）共生志向と障害者・外国人以外の身近なマイノリティへの援助志向との関連

ここでは，障害者および外国人との共生志向が身近な他のマイノリティへの意識とどのような関連を持つのかを明らかにすることを目的に，障害者と外国人以外の身近なマイノリティへの援助志向と障害者および外国人との共生志向のパターンとの関連について分析する。具体的には，共生志向に関する４群を独立変数，「困っている他者への手助け志向」

(Q11) のうち，お年寄り，妊娠中の人，赤ちゃん連れの人についての項目（「1．積極的に手助けしたい」「2．対応できる人に助けを求めたい」「3．どうしたらよいかわからない」「4．お節介になる気がする」「5．自分にとって負担になる気がする」「6．自分にとって関係ない気がする」）を従属変数としたχ2乗検定を行った。その結果を表7～表9に示す。

表7　街で困っているお年寄りに出会った時に感じることとの関連

		1.積極的に手助けしたい		2.対応できる人に任せたい		3.どうしたらいいかわからない		4.お節介になる気がする		5.自分にとって負担になる気がする		6.自分にとって関係ない気がする		合計
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
CL1	度数	330	242	94	478	90	482	67	505	7	565	12	560	572
	%	57.7%	42.3%	16.4%	83.6%	15.7%	84.3%	11.7%	88.3%	1.2%	98.8%	2.1%	97.9%	100.0%
	残差	6.4	-6.4	.2	-.2	-2.6	2.6	-2.5	2.5	-2.4	2.4	-4.0	4.0	
CL2	度数	83	189	46	226	67	205	48	224	11	261	24	248	272
	%	30.5%	69.5%	16.9%	83.1%	24.6%	75.4%	17.6%	82.4%	4.0%	96.0%	8.8%	91.2%	100.0%
	残差	-6.9	6.9	.4	-.4	2.9	-2.9	1.9	-1.9	2.3	-2.3	4.0	-4.0	
CL3	度数	40	42	10	72	17	65	9	73	4	78	6	76	82
	%	48.8%	51.2%	12.2%	87.8%	20.7%	79.3%	11.0%	89.0%	4.9%	95.1%	7.3%	92.7%	100.0%
	残差	.0	.0	-1.0	1.0	.5	-.5	-.9	.9	1.7	-1.7	1.3	-1.3	
CL4	度数	70	80	24	126	27	123	29	121	2	148	6	144	150
	%	46.7%	53.3%	16.0%	84.0%	18.0%	82.0%	19.3%	80.7%	1.3%	98.7%	4.0%	96.0%	100.0%
	残差	-.5	.5	-.1	.1	-.2	.2	1.9	-1.9	-.8	.8	-.3	.3	
合計	度数	523	553	174	902	201	875	153	923	24	1052	48	1028	1076
	%	48.6%	51.4%	16.2%	83.8%	18.7%	81.3%	14.2%	85.8%	2.2%	97.8%	4.5%	95.5%	100.0%
		$\chi^2(3)=54.77$, p<.001		$\chi^2(3)=1.10$, $p=.78$		$\chi^2(3)=9.88$, $p=.02$		$\chi^2(3)=9.49$, $p=.02$		$\chi^2(3)=9.95$, $p=.02$		$\chi^2(3)=21.29$, $p<.001$		

表8　街で困っている妊娠中の人に出会った時に感じることとの関連

		1.積極的に手助けしたい		2.対応できる人に任せたい		3.どうしたらいいかわからない		4.お節介になる気がする		5.自分にとって負担になる気がする		6.自分にとって関係ない気がする		合計
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
CL1	度数	321	251	106	466	111	461	29	543	5	567	20	552	572
	%	56.1%	43.9%	18.5%	81.5%	19.4%	80.6%	5.1%	94.9%	.9%	99.1%	3.5%	96.5%	100.0%
	残差	5.3	-5.3	.3	-.3	-3.6	3.6	-1.2	1.2	-1.3	1.3	-3.2	3.2	
CL2	度数	86	186	50	222	93	179	17	255	6	266	27	245	272
	%	31.6%	68.4%	18.4%	81.6%	34.2%	65.8%	6.3%	93.8%	2.2%	97.8%	9.9%	90.1%	100.0%
	残差	-6.5	6.5	.1	-.1	4.7	-4.7	.3	-.3	1.5	-1.5	3.6	-3.6	
CL3	度数	41	41	10	72	22	60	2	80	3	79	6	76	82
	%	50.0%	50.0%	12.2%	87.8%	26.8%	73.2%	2.4%	97.6%	3.7%	96.3%	7.3%	92.7%	100.0%
	残差	.3	-.3	-1.5	1.5	.7	-.7	-1.4	1.4	2.0	-2.0	.7	-.7	
CL4	度数	75	75	30	120	30	120	15	135	0	150	7	143	150
	%	50.0%	50.0%	20.0%	80.0%	20.0%	80.0%	10.0%	90.0%	0.0%	100.0%	4.7%	95.3%	100.0%
	残差	.4	-.4	.6	-.6	-1.2	1.2	2.3	-2.3	-1.5	1.5	-.5	.5	
合計	度数	523	553	196	880	256	820	63	1013	14	1062	60	1016	1076
	%	48.6%	51.4%	18.2%	81.8%	23.8%	76.2%	5.9%	94.1%	1.3%	98.7%	5.6%	94.4%	100.0%
		$\chi^2(3)=44.53$, p<.001		$\chi^2(3)=2.36$, $p=.50$		$\chi^2(3)=23.90$, $p<.001$		$\chi^2(3)=7.13$, $p=.07$		$\chi^2(3)=8.07$, $p=.05$		$\chi^2(3)=15.18$, $p=.002$		

表９　街で困っている赤ちゃん連れに出会った時に感じることとの関連

		1.積極的に手助けしたい		2.対応できる人に任せたい		3.どうしたらいいかわからない		4.お節介になる気がする		5.自分にとって負担になる気がする		6.自分にとって関係ない気がする		合計
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	
CL1	度数	310	262	92	480	115	457	50	522	6	566	20	552	572
	%	54.2%	45.8%	16.1%	83.9%	20.1%	79.9%	8.7%	91.3%	1.0%	99.0%	3.5%	96.5%	100.0%
	残差	5.3	-5.3	-.2	.2	-2.4	2.4	-.7	.7	-2.3	2.3	-4.3	4.3	
CL2	度数	89	183	48	224	78	194	24	248	9	263	33	239	272
	%	32.7%	67.3%	17.6%	82.4%	28.7%	71.3%	8.8%	91.2%	3.3%	96.7%	12.1%	87.9%	100.0%
	残差	-5.3	5.3	.7	-.7	2.6	-2.6	-.3	.3	1.9	-1.9	4.4	-4.4	
CL3	度数	38	44	7	75	19	63	6	76	5	77	9	73	82
	%	46.3%	53.7%	8.5%	91.5%	23.2%	76.8%	7.3%	92.7%	6.1%	93.9%	11.0%	89.0%	100.0%
	残差	-.1	.1	-2.0	2.0	.0	.0	-.6	.6	2.8	-2.8	1.7	-1.7	
CL4	度数	65	85	28	122	35	115	20	130	1	149	8	142	150
	%	43.3%	56.7%	18.7%	81.3%	23.3%	76.7%	13.3%	86.7%	.7%	99.3%	5.3%	94.7%	100.0%
	残差	-.9	.9	.9	-.9	.1	-.1	1.8	-1.8	-1.2	1.2	-.6	.6	
合計	度数	502	574	175	901	247	829	100	976	21	1055	70	1006	1076
	%	46.7%	53.3%	16.3%	83.7%	23.0%	77.0%	9.3%	90.7%	2.0%	98.0%	6.5%	93.5%	100.0%
		$\chi^2(3)=34.96, p<.001$		$\chi^2(3)=4.63, p=.20$		$\chi^2(3)=7.68, p=.05$		$\chi^2(3)=3.56, p=.31$		$\chi^2(3)=13.71, p=.003$		$\chi^2(3)=25.71, p<.001$		

結果について群別に見ていくと，まず「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」は，お年寄り，妊娠中の人，赤ちゃん連れの人いずれに対しても「５．自分にとって負担になる気がする」や「６．自分にとって関係ない気がする」の回答率は低く，「１．積極的に手助けしたい」の回答率が高くなっていた。つぎに「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」は，お年寄り，妊娠中の人，赤ちゃん連れの人いずれに対しても「１．積極的に手助けしたい」の回答率が低く，「３．どうしたらよいか分からない」，「６．自分にとって関係ない気がする」の回答率が高くなっていた。加えて，お年寄りに対しては「５．自分にとって負担になる気がする」の回答率も高くなっていた。つづいて「外国人との共生には積極的な群(CL3)」は，妊娠中の人と赤ちゃん連れの人に対して「６．自分にとって関係ない気がする」の回答率が高くなっていた。これらについては回答率に偏りが見られた一方で，「障害者との共生には積極的な群(CL4)」についてはいずれの対象についても回答率の偏りは見られなかった。

これらの結果から，まず，「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」と「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」については身近な障害者や外国人への援助志向と同様の傾向を示しており，複数の対象との共生に対して積極的であることは，身近な他のマイノリティへの援助志向の高さと関連し，逆に障害者と外国人のどちらの対象との共生に対しても消極的であることは，身近な他のマイノリティへの援助志向の低さと関連することが示された。その他特筆すべき点としては次の２点が挙げられる。第１に，障害者との共生に対して積極的な姿勢を示さない「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」と「外国人との共生には積極的な群（CL3）」の共通点として「５．自分にとって負担になる気がする」の回答率が高くなっていた点が挙げられる。前項の分析

の結果からこれら２つの群は身近な障害者への支援について自己負担感が高いことが示されたが，本項の結果から，障害者だけでなく身近な他のマイノリティに対しても同様に自己負担感を抱きやすいことが窺える。第２に，前節において障害者との共生に対しては積極的な姿勢を示すが外国人との共生に対しては積極的な姿勢を示さないことの背景要因としては外国人と関わる経験の少なさがあると指摘したが，「障害者との共生には積極的な群（CL4）」については回答率に偏りがなかったことから，外国人と関わる経験の少なさは外国人との共生志向や援助志向とは関係があるが，身近な他のマイノリティに対する援助志向とは関連があるとは言えないことが窺える。

５．おわりに

本稿では，「外国人・障害者のための社会づくりへの賛否」（Q16）に焦点をあてて検討を行った。まず，クラスタ分析によって障害者および外国人との共生志向に関する４群が抽出された。つぎに，「障害者・外国人両者との共生に積極的な群（CL1）」を参照カテゴリとした多項ロジスティック回帰分析によって，抽出された障害者および外国人との共生志向の４つのパターンを分ける背景要因の検討を行った。その結果，中学生であることや，男性であることといった基本属性の影響もあるが，家庭内で社会の問題について話すことや授業をよく理解していることといった，家庭や学校における教育経験が障害者と外国人の両方と共生することに積極的な態度を示すことを規定する部分があることが示唆された。加えて，外国人との共生について積極的な姿勢を示さないことには外国人と関わる経験の少なさが背景にあることが示唆された。

つづいて，障害者および外国人との共生志向の４つのパターンと身近な障害者および外国人への援助志向との関連を検討した。その結果，障害者および外国人両者との共生を志向することと身近な障害者および外国人への援助志向との間に正の関連があることが示された。また，障害者との共生に対して積極的な姿勢を示すか否かを分ける背景要因としては，自己負担感と無関心があることが示唆された。日本の国際化に対する認識についてマイノリティ支援に対する認識との関連から検討した坂口・島埜内・岡本（2014）においても，国民社会内の制度的改変を積極的に是認する「トランスナショナリズム」傾向の弱さと身近なマイノリティへの支援に対する自己負担感の関連が見られ，既存の制度の維持を前提とする「インターナショナリズム」傾向の強さと身近なマイノリティへの支援に対する自己負担感の関連が示されている。本稿では「障害者・外国人いずれとの共生にも消極的な群（CL2）」と「外国人との共生には積極的な群（CL3）」において身近な障害者への支援について自己負担感の回答率が高かったが，これら２つの群はいずれも国民社会内の制度的改変を積極的に是認することに関連する質問項目である「３．国籍に関係なく，仕事を得る機会が同じようにあること」および「４．永住外国人（国籍はなくても，日本に

住み続けることが認められている人）が政治に参加できるようにすること」の得点が低く，本稿においても先行研究と同様の結果が得られたと考えられる。

加えて，障害者および外国人との共生志向の４つのパターンと身近な他のマイノリティへの援助志向との関連を検討したところ，複数の対象との共生に対して積極的であることは，身近な他のマイノリティへの援助志向の高さと関連し，逆に障害者と外国人のどちらの対象との共生に対しても消極的であることは，身近な他のマイノリティへの援助志向の低さと関連することが示された。さらに，障害者との共生に積極的な姿勢を示さないことは，障害者だけでなくお年寄りや妊娠中の人，赤ちゃん連れの人など身近な他のマイノリティへの援助に対しても自己負担感を抱きやすいことが明らかとなった。加えて，外国人と関わる経験の少なさは外国人との共生志向や援助志向とは関係があるが，身近な他のマイノリティに対する援助志向とは関連があるとは言えないことが示された。

以上の結果を踏まえ，本稿の締めくくりとして障害者および外国人との共生への積極的な態度の形成について，３つの可能性について提示する。第１は，家庭で社会におけるマイノリティの生活に関することを話題にすることや学校においてマイノリティへの関心を高められるよう話題を出すことでマイノリティとの共生志向を高められる可能性，第２は，学校内外において外国人と関わる経験を増やしていくことにより外国人との共生志向が高められる可能性，第３は，身近な障害者への支援に対する自己負担感に介入することにより障害者との共生志向が高められる可能性，という３点である。なお，障害者や外国人との共生に対する積極的な態度は，障害者や外国人だけでなく他のマイノリティへの支援への積極性にもつながる可能性も示唆される。

［注記］

1）「家族内の話題」（Q6）の主成分分析では，固有値１以上となったのは第１主成分のみであった。結果を表 11 に示す。

表 11　「家族内の話題」（Q6）の主成分分析結果

説明された分散の合計						
成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和		
	合計	分散の％	累積％	合計	分散の％	累積％
1	2.91	58.14	58.14	2.91	58.14	58.14
2	.67	13.41	71.55			
3	.54	10.79	82.34			
4	.48	9.61	91.95			
5	.40	8.05	100.00			

成分行列	
	成分
	1
Q6_1 自分の住んでいる町のことについて、家族で話す	.73
Q6_2 政治や社会の問題について、家族で話す	.76
Q6_3 障害のある人の生活について、家族で話す	.76
Q6_4 外国や外国の人たちの様子について、家族で話す	.76
Q6_5 お年寄りの生活について、家族で話す	.79

2）「家事手伝いの習慣」（Q7）の主成分分析では，固有値 1 以上となったのは第 1 主成分のみであった。結果を表 12 に示す。

表 12　「家事手伝いの習慣」（Q7）の主成分分析結果

説明された分散の合計						
成分	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和		
	合計	分散の %	累積 %	合計	分散の %	累積 %
1	2.19	54.62	54.62	2.19	54.62	54.62
2	.77	19.34	73.95			
3	.53	13.26	87.22			
4	.51	12.79	100.00			

成分行列	
	成分
	1
Q7_1 家のなかで、食事の支度をする	.77
Q7_2 家のなかで、食事の後かたづけをする	.71
Q7_3 家のなかで、掃除をする	.74
Q7_4 家のなかで、洗濯をする	.73

［文献］

坂口真康・島埜内恵・岡本智周，2014，「日本の国際化に対する認識の検討―マイノリティ支援に対する認識との関連―」『共生社会に関する調査―2014 年調査報告―』，pp. 66-80.